

幼小連携取組事例集

令和8年7月

- ・本市では、令和５年２月に「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画（以下、後期計画）」を策定し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、市内の６９小学校区においてそれぞれの実情に応じ、幼児と児童の交流や教職員の相互理解を深める「幼・保・小連携事業」を推進するとともに、幼児教育施設と小学校の連携に係るポイント等をまとめた事例集等を作成し、活用することにより、全市的な連携の強化を図ることとしています。
- ・本事例集は、後期計画に基づき、御協力いただいた幼児教育施設、小学校の幼小連携の取組をとりまとめ、作成いたしました。
- ・各幼児教育施設、小学校の皆様の今後の幼小連携の取組の参考としていただきますようお願い申し上げます。

事例 1 子どもの気持ちに寄り添った交流	ナーサリースクールとまつり 宇都宮市立戸祭小学校	・・・	P4
事例 2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり ～子どもの想いをつなぐ幼保小連携～	宇都宮市石井保育園 宇都宮市立石井小学校	・・・	P17
～事例 2 の裏側～ 教職員同士の連携の事例		・・・	P26
事例 3 幼稚園と小学校の 双方向による交流	御幸幼稚園 宇都宮市立御幸小学校	・・・	P27
事例 4 幼小交流会	認定しらゆりこども園 宇都宮市立城山西小学校	・・・	P35

事例Ⅰ 子どもの気持ちに寄り添った交流

ナーサリースクールとまつり 宇都宮市立戸祭小学校

本事例のポイント

自発性を大切にして
活動内容を工夫する

継続した交流活動で
学びを深める

具体的な工夫

- ◎子ども達の自発的な思いを原動力にするための仕掛け（偶然の出会い、自由な環境設定等）で、子ども達発信の活動に変えていく。
- ◎園児の「何かやりたい！」という思いを行動につなげ、達成感を味わわせることで自信を醸成する。
- ◎出会い～招待状～交流会という「点」を「線」でつなげる交流活動で、子ども達の「わくわく感」を持続させる。

I 子どもの気持ちに寄り添った交流

<施設名>	
ナーサリースクールとまつり（保育園）	宇都宮市立戸祭小学校
<園概要>（R7.5時点） ・園児数：136人（うち、5歳児24人） ・主な就学先小学校及び人数（予定）： - 戸祭小学校 4人 - 明保小学校 3人 - 上戸祭小学校 2人	<学校概要>（R7.5時点） ・学校児童数：518人 （うち、1年生73人：3クラス） ・主な就学前幼児教育施設及び人数： - 認定こども園さくらんぼ幼稚園 34人 - ナーサリースクールとまつり 7人 - 宝木保育園 4人
<実施時期・概要> 【11月】1）桜美公園での交流（出会い）～【12月】2）招待状のやりとり ～【1月】3）交流会～【3月】話合い（小学校）	
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に特につながる部分> ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現	

I 子どもの気持ちに寄り添った交流

＜施設名＞	
ナーサリースクールとまつり	宇都宮市立戸祭小学校
＜活動のねらい＞	
・子どもたちの主体的な活動の中で園児と小学生が出会い、自然な交流を実施する。 ・園児、小学生どちらも尊重されるべき存在であることを互いに認め合う中で、園児の自己肯定感と就学に対する期待感を醸成する。	・年長児と自分を比べ、大きくなったことを感じたり、自分の成長に関わってくれた人への、感謝の気持ちをもったりすることができる。
＜経験する内容＞	
1) 近隣の同じ公園に園児・小学生が出かけて出会い、そこでの自然な交流を通じてお互いの存在を認識する。 2) 小学生から招待状を受け取る。 3) 公園での経験を発展させ、見知った相手に何かをしてあげたいという気持ちを互いにもち、小学校での交流会に参加する。	1) 年長児が遊んでいる桜美公園に行き、同じ空間で活動する。（年長児との出会い、意図的に関わりはもたない。） 2) 年長児が楽しみにしてくれるような内容や書き方を考え、招待状を作成する。 3) 年長児を小学校に迎え、入学を楽しみにしてもらえようもてなす。

<活動の内容>

ナーサリースクールとまつり

1) 11月27日(木) 桜美公園での交流

- ・ 小学校と保育園どちらからも近い公園に両者がお出掛けし、偶然を装った出会いの場を設定。
→ 担任はあえて主導せず、公園の中で自由に遊ぶ子どもたちの観察に努める。
- ・ 当園の卒園児などを仲介とした、自然発生的な交流が所々で徐々に起こり始める。
 - ◎ 園外保育のテーマが「秋さがし」であったため、木の実などを探す園児に対し、それに協力してくれる児童が現れた。
 - ◎ ぶらぶらと散策したり遊具で遊ぶ児童に興味をもった園児が付き添うように歩く姿が見られた。
- ・ 交流が進むにつれ、砂場の縁に乗って「へびおに」のようなじゃんけんが園児と児童の間で起こり、それを見た園児・児童が互いのチームに助太刀する形でどんどん参戦し、大人数でのじゃんけん大会へと発展した。

※ 赤帽が小学生，オレンジ帽が園児



公園で小学生と遭遇



小学生を追いかける園児



砂場でじゃんけん大会

<活動の内容>

宇都宮市立戸祭小学校

Ⅰ) 学区内公園での交流

- ◎年長児が遊んでいる学区内の公園に1年生が秋を見つけに行く。(年長児との出会い)
- ◎意図的に関わりはもたず、年長児が遊んでいる様子や自然と交流した中で気付いたことを小学校訪問での活動に生かせるようにする。

① 事前学習

- ・公園でのマナーを話し合う中で、「保育園でお散歩に来ているかも」「自分より小さい子が遊んでいたら優しくしてあげたい」という意見が出ていた。

② 公園での活動

- ・秋探し(木の実や落ち葉など)
- ・遊具等での遊び

③ 事後指導

- 公園での様子を振り返り、もうすぐ小学校に入学する年長児に向けてできることを考える。
 - ・年長さんがかわいく思えた。
 - ・いっしょに遊びたい。
 - ・知らない子たちだったから緊張した。
 - ・小学校のことを紹介したい。



公園での出会い



公園での交流

宇都宮市立戸祭小学校

＜活動でみられた子どもの姿＞

- ・園や学校ではなく、両者が見知った公園での“偶然の出会い”という設定により、緊張なく自然な交流が生まれた。
- ・小学生の中に卒園児や保育園の学童保育に通っている児童もいたため、そこから交流の輪が広がっていった。（当園は縦割り保育を実施しているため異年齢の子ども同士の関係が深い）
- ・特に設定はせず、自由に遊べるようにしたため、能動的に交流をもつ姿が見られ、別れた後も強く印象に残る交流となった。
- ・後半の「へびおに」じゃんけんはあっという間に大きなグループとなり、小学生との交流に消極的だった園児にとっても、輪に入るよいきっかけとなった。

- ・事前学習の段階で、「園児が遊びに来てくれたらいいな」という声が聞こえていた。当日、年長児が歩いて公園に来る姿を見ると、すぐに関わりあいさつを交わしていた。
- ・年長児が木の実を探したり、遊具で遊んだりしているところを近くで見ていたが、どう話しかけてよいかわからず、困惑している様子があった。離れたところから「可愛い」と1年生同士で話しているが、関わるには至らない学級もあった。
- ・児童一人が年長児と交流を始めると、自分も交流したいという児童が次々に現れ、年長児対1年生のじゃんけん大会が開かれた。
- ・目線を合わせ、自分の拾った秋のものを見せたり、渡したりする姿が見られた。

子どもの気持ちに寄り添った交流 1) 桜美公園での交流



<施設名>

ナーサリースクールとまつり

宇都宮市立戸祭小学校

<環境構成・教材や保育者の援助等>

・形式的な連携にとらわれず，子どもたちが自由に動ける環境をまず設定し，観察をしっかり行った。

→ 子どもたちの心の動きを感じ，その気持ちに寄り添った連携を行う事ができた。

・「秋さがし」というテーマを設けた園外保育

→ 小学生も同じ目的で来ていたため，共通の話題をもった交流へとつながった。



予想外の交流に発展

・初めに意図的な関わりをもたずに同じ空間で活動することで，「年長さんと仲よくしたい。」という児童自身の思いを大切にし，主体的に計画したり行動したりできるようにした。

・学校ボランティアに協力してもらうことで，児童がより自由に活動することができるようにした。

・事後指導で，公園で年長児と交流した感想を話し合い，次の交流につながるようにした。



第1回合同打合せの様子



ふりかえりで活用したワークシート

<活動の内容>

ナーサリースクールとまつり

2) 12月11日(木) 小学校からの招待状

- ・ 小学校の担任と児童数名が園を訪れ、交流会の招待状を受け取る。
→ 交流会を楽しみに待つ中で「私たちも何かやりたい!」との意見が出たことから、クラスで話し合いを行い、交流会の場で園児の大好きなベル演奏を披露することになった。



招待状お届け

<活動の内容>

宇都宮市立戸祭小学校

① 公園での出会い後、招待状(何をして遊ぶかを記載)を作成

○ いっしょにどんな遊びをしたいかを考える。

- | | | | | |
|---------|---------------------|----------|------------|---------|
| ・ おえかき | ・ クイズ | ・ うた | ・ おにごっこ | ・ ぬりえ |
| ・ おりがみ | ・ なぞなぞ | ・ おみせやさん | ・ だるまさんごっこ | |
| ・ へびおに | ・ じこしょうかい(すきなかくしゅう) | | | ・ かくれんぼ |
| ・ バナナおに | ・ ランドセル体験 | ・ 当番体験 | ・ けんけんぱ | |
| ・ げき | ・ ハンカチおとし | | | |

② 招待状を届ける

- 下校時に、児童代表の卒園生3名と担任でお届けをする。



年長児の様子



小学生の様子

<活動の内容>

ナーサリースクールとまつり

3) 1月22日(木) 交流会

- ① 小学校の体育館に集合後「はじめの会」を開催 →一緒に合唱を行いアイスブレイク
- ② 学校内の探検
 - ・園児と児童でグループを作り、教室や図書室、校長室、保健室等を案内してもらった。
 - ・保健室の前等では小学生が用意してくれていたクイズを披露してもらった。
- ③ 体験コーナー
 - ・体育館に戻り、小学生たちが考えて用意してくれた「だるまさんが転んだ」「読み聞かせ」「給食レストラン」「ランドセル体験」等のブースをペアグループで回り、一緒に楽しんだ。
- ④ 「おわりの会」を開催 →園児がベル演奏を披露して小学生から大きな拍手をもらった。



体育館にて小学生と再会



教室や図書室などを案内



ブースを楽しむ子どもたち



小学生にベル演奏を披露

<活動の内容>

宇都宮市立戸祭小学校

3) 小学校訪問での交流

① 始めの会（全体で体育館）

- ・小学生と年長児が「さんぽ」を一緒に歌う。

② グループ活動

- ・自己紹介
- ・学校紹介 図書室，保健室，校長室，職員室，体育館，1年教室，
学習室，昇降口の見学
- ・お店屋さん

教室まちがいさがし

だるまさんがころんだ

給食レストラン

当番体験（体操）

クイズ

ランドセル体験

読み聞かせ（音読）

折り紙（紙飛行機）

登下校クイズ

③ プレゼント交換

- ・折り紙とメッセージカード
- ・小学生が年長児を見送る。

④ 終わりの会



図書室での交流



給食レストラン



教室の紹介

I 子どもの気持ちに寄り添った交流

<施設名>

ナーサリースクールとまつり

宇都宮市立戸祭小学校

<活動でみられた子どもの姿>

- ・園児と児童のグループを作ったときは、小学生が自己紹介してもただ聞くだけで、緊張している様子がうかがえた。
- ・校内探検のときもまだ緊張が解けないようであったが、熱心に小学生の話を聞く姿が見られ、クイズ等で交流するうちに言葉数が増えてきた。
- ・体験コーナーの頃になるとリラックスした雰囲気になり、自由に各ブースを行き来して、一緒に盛り上がる光景が見られた。
- ・たくさんの小学生の前でベル演奏を行い、大きな拍手を貰えたことで達成感を感じ、自信につながったようである。
- ・小学生から貰ったお土産が壊れてしまった園児に「交換する？」と聞いても、一緒に交流した子から貰ったので「これがいい」と交換せず大切にしていた。
- ・お世話をしてくれた小学生の名前をしっかりと覚え「また学校へ行きたいな」という声が多く聞かれた。

- ・準備から当日までグループ活動が多かったので、何か課題にぶつかった時も子どもたちなりに相談し協力して解決しようとする姿が見られた。
- ・活動が始まると自然と手をつなぎ校内を回っていた。
- ・年長児の顔を見て、優しい口調で声をかけたり、年長児の願いを聞き出し、叶えてあげようと動いたりしていた。
- ・交流ではうまく関われなかった児童も年長児の演奏を真剣に聞き「上手だった！」と称賛する児童が多かった。



年長児の演奏を聴く児童



年長児の要望に応えようとする児童

I 子どもの気持ちに寄り添った交流

<施設名>

ナーサリースクールとまつり

宇都宮市立戸祭小学校

<環境構成・教材や保育者の援助等>

- ・ 事前に交流をしていることで、緊張の中にも再会を喜ぶ姿が見られた。
- ・ 小学生自身から招待状を貰うことで事前に交流会のイメージが湧き、「私たちも何かしたい」という思いにつながった。
- ・ 少数のグループで活動することにより互いの意思の疎通がしやすくなり、思ったよりも早く緊張が解けた。
- ・ 園児が得意に感じているベル演奏を披露する場を設けることで、「ただもてなしを受けるだけの年下の存在」ではなく「小学校でも通用する人間」という自己有用感・自己肯定感を得るきっかけとなった。

- ・ 入学前や公園での体験から年長児との活動を具体的に想起して計画や準備ができるようにした。
- ・ 交流でうまく関わるのが難しい児童には、意図的に活躍の場を設け、どの子も達成感を味わえるようにした。
- ・ 事後指導でうまくいった点を出し合い、なぜ成功したのかを話し合うことで今後の学校生活につながるようにした。全体で共有することで、個人では気付かなかったことにも成長を感じられるようにして進級への意欲につなげた。



振り返りで活用
したワークシート

I 子どもの気持ちに寄り添った交流

<施設名>

ナーサリースクールとまつり

宇都宮市立戸祭小学校

<成果と今後の課題>

(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や架け橋期のカリキュラムにつながる視点を含めて)

<成果>

- ・自然な出会いからの交流を企画することにより、その後の展開が子ども次第で変化し、それぞれの子どもの気持ちを汲み取って活動を進めることで幼小連携が大人企画の「イベント」ではなく子どもの主体的な活動となった。
- ・公園での出会いという「点」が、招待状のやり取りや交流会などの複数の点とつながることで「線」となり、継続的な活動を展開できた。

<課題>

- ・「この小学校来る？」と聞かれて、行かないので児童からがっかりされた園児もあり、それだけ親近感が湧いたことは成果ではあるが、多くの他校と同じことは出来ない難しさを感じた。

<成果>

- ・普段の生活の中でも、友達と協力して課題を解決しようとする姿が見られるようになってきた。
- ・自信がつき、学習や生活に前向きに取り組めるようになってた。
- ・進級への期待、学年が上がることへの自覚が芽生えた。

<課題>

- ・他の単元や教科、行事と並行して実施したため、児童も教師もあわただしく、準備の時間を捻出するのに難しさを感じた。
- ・交流する施設が2つあり、日程や準備の調整に難しさを感じた。

事例2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり ～子どもの想いをつなぐ幼保小連携～

宇都宮市石井保育園 宇都宮市立石井小学校

本事例のポイント

児童の
はりきりを生かす

園児が小学校を身近に
感じ、安心感を持つ

教職員が園児・児童の発達の段階の違い、
つなぎたい資質・能力を共有する

具体的な工夫

- ◎ 児童が「来年生を楽しませる」「小学校は楽しいところだと伝える」等明確な目的意識・相手意識をもつことで、自らの経験を生かしながら、工夫・協力して活動を行う。
- ◎ 2年生の案内で、学校の様子を楽しみながら知り、小学校を身近に感じる。
- ◎ 保育士と教員が、同じ場面で一緒に園児・児童を見ることで、発達の段階の違いや幼小でつながる資質・能力についての理解を深める。

2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり



＜施設名＞	
宇都宮市石井保育園	宇都宮市立石井小学校
＜園概要＞（R7.12時点） ・園児数：145人（うち、5歳児35人） ・主な就学先小学校及び人数（予定）： - 石井小学校 7人 - 清原南小学校 6人 - 峰小学校 6人 - 陽東小学校 3人 - 横川東小学校 4人	＜学校概要＞（R7.12時点） ・学校児童数：729人 （うち、2年生114人：4クラス） ・主な就学前幼児教育施設及び人数： - 恵光幼稚園 13人 - 石井保育園 10人 - 認定こども園さくらが丘 22人
＜実施概要・時期＞	
【5月】事前準備～【1月】いしいっこまつりでの交流，お手紙のやりとり	
＜幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に特につながる部分＞	
・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い	

2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり

<施設名>

宇都宮市石井保育園

宇都宮市立石井小学校

<活動のねらい>

- ・小学生に親しみをもち、ふれあいを楽しむ。
- ・小学生が丁寧に説明してくれる姿や思いやりの気持ちをもって接してくれる姿を見て、自分たちも年下児への接し方を考えられるようにする。
- ・小学校の様子を知り、入学への不安を取り除くことで期待感や自信が高まる。

- ・来年生と進んで関わり、ふれあいを楽しむ。
- ・これまでの体験を生かして、相手の発達段階に合った遊びや活動を工夫したり、小さい子の気持ちを考えて行動できるようにする。
- ・来年生と接する楽しさや適切なかかわり方に気付くとともに、自分の成長に気付くことができるようにする。

<経験する内容>

- ・教室等の雰囲気を楽しみ、2年生の話を聞きながら小学校の生活や活動を知る。
- ・2年生の手作り玩具を楽しみながら2年生と一緒に遊び、親しみをもつ。
- ・感謝の思いを文字や絵で相手に伝える。

- ・小学校について案内したいことを考え、来年生にわかりやすく伝える。
- ・相手意識を明確にし、来年生と楽しく遊ぶための計画・準備を行う。
- ・来年生の立場に立ち、思いやって活動することを通して、自分や友達の成長やよさに気付く。

2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり

<活動の内容>

宇都宮市石井保育園

【石井小学校2年生主催いしいっこまつりまでの取り組み】

- ・石井小2年生の街探検での顔合わせ
- ・石井小の場所の確認(散歩で小学校まで行き、校舎や校庭の雰囲気を知る)

【いしいっこまつりでの交流】

- ・教室に案内してもらい、机や椅子に座らせてもらう。
- ・教科書やノート、道具箱等を見せてもらい、小学生の勉強について知る。
- ・ランドセルを背負わせてもらったり、教科書を見せてもらったりする。
- ・体育館でルールを守りながら2年生の手作り玩具を楽しむ。
- ・2年生と一緒に活動を楽しむ。



☆初めてのご対面☆



☆初めて見る教科書☆



☆ゲーム楽しかったよ☆

2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり

<活動の内容>

宇都宮市立石井小学校

・これまでに体験，経験したことや身の回りの人々からの情報を生かし，来年生に小学校の教室を案内したり，手作り玩具の遊び方や使い方について，わかりやすく伝えたりする。

【教室案内の例】

- ・教室にある机や椅子に座ってもらう。
- ・ランドセルを背負わせてあげる。
- ・教科書やノートを使って，どんな勉強をしているか説明する。
- ・時間割，掲示物などについて説明する。等

【手作り玩具のお店の例】

- ・ビー玉迷路，ボーリング，輪投げ，もぐらたたき，パタパタカー，とことこ車，ロケット
- ・教室やお店を案内するなどして，一緒に楽しく活動する。

<教室案内>



<お店の例>



パタパタカー



ボーリング

<お店で遊ぶ姿>



輪投げ

2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり

<施設名>

宇都宮市石井保育園

宇都宮市立石井小学校

<活動でみられた子どもの姿>

- ・ 小学校の広さや体育館の大きさに心を躍らせながら、小学校の案内を受けていた。
- ・ 小学2年生の持ち物や生活についての話によく耳を傾け、真剣に話を聞く姿が見られた。
- ・ 背負わせてもらったランドセルの重さや教科書の文字の多さに驚くとともに、小学校への期待感が高まる姿が見られた。
- ・ 2年生から教室案内や教材等の説明を受け、小学校生活が身近なものになり、積極的に質問する姿が見られた。
- ・ 多くの玩具に、目を輝かせながら友達や小学生と協力したり、楽しい思い出を共有しながら楽しむとともに、まつりの進行を自分たちで行う小学生に感銘を受けていた。



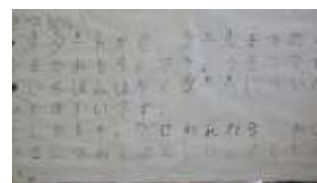
☆いしいっこまつり楽しいね☆

- ・ 「来年生を楽しませる」「小学校は楽しいところだと伝える」という目的意識をもって、グループで工夫したり協力したりしながら活動していた。
- ・ 教室の中を案内する際には、来年生を気遣いながら手をつないで歩く姿が見られた。
- ・ 教室案内で説明する内容について、考えていたことを伝えるだけでなく「何か質問ない？」と声を掛け、わかりやすく話をしようと意識している姿が見られた。
- ・ 店員として、玩具の遊び方を説明する時には、わかりやすい言葉を選んだり、お手本を示したりと来年生が楽しめるように工夫をする姿が見られた。

<ルール説明の紙>

<玩具作り>

<玩具の遊び方説明>



見てわかるように、平仮名で読み仮名を振った



グループで協力しながら作成



お手本を見せながら説明している

2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり

<施設名>

宇都宮市石井保育園

宇都宮市立石井小学校

<活動でみられた子どもの姿>

【交流後、小学校への手紙作成】

- ・ いしいっこまつりの後、感謝の気持ちを小学生に伝えたいという声子どもたちからあがり、手紙作成を楽しみながら行った。
- ・ 友達と言葉による伝え合いを楽しみながら、そのときに感じたことや考えたことを絵や文字で表現していた。

【小学校との手紙交換】

- ・ 小学校へ手紙を届けに行き、2年生が手紙を喜んで受け取ってくれ、2年生からも「入学を楽しみに待っている」という内容の手紙をいただいたことで小学校への期待感がより高まった様子であった。



☆2年生ありがとう☆ ☆タッチしてお別れ☆ ☆お手紙もらったよ☆

【交流後、保育園への手紙作成】

- ・ 来年生が小学校に入学してくることを楽しみにしている気持ちを伝えるため、手紙を作成した。
- ・ 来年生が安心して入学できるようにするためのメッセージを書こうと呼びかけると、小学校の楽しさやおすすめしたいことを書く姿が見られた。

【保育園との手紙交換】

- ・ 保育園から受け取った手紙を読み、「いっしょうけんめい書いてくれた。」と喜んでいる姿が見られた。
- ・ 来年生と挨拶を交わしたり、ハイタッチしたりしながらお見送りをしたことで、お兄さんお姉さんになったという気持ちが芽生え、意識の高まりが感じられた。



2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり

<施設名>

宇都宮市石井保育園

宇都宮市立石井小学校

<環境構成・教材や保育者の援助等>

- ・小学校に行く前に5月にきた街探検の際の小学生や小学校の写真，お礼でもらった手紙などを振り返ることで，より期待感が膨らむようにした。
- ・小学校への訪問時，慣れない場所での緊張等で小学生と関わるのが難しい子には，保育士等が仲立ちしたり，一緒に周ることで安心して過ごせるように配慮した。
- ・ランドセルを背負わせてもらったり，教室の椅子に座らせてもらったときには，小学校への期待感が高まったり，小学校生活へのイメージがふくらんだりするような声かけをした。
- ・お礼の手紙作成では，今まで以上に文字に興味をもち，自分で書こうとする姿が見られたので，保育室に掲示してある50音表を保育士等と確認したり，「ありがとう」の気持ちが伝わるよう，楽しかった思い出を話し合う時間を設けたりした。

- ・小学校の先輩として，「来年生を楽しませたい」という思いを大切に，目的意識をもたせて計画や準備を進めることができるようにした。
- ・これまで経験してきたことを生かして学校案内やお店屋さんの準備ができるように，今まで学習してきたことを想起させたり，写真を見せたりしながら進めた。
- ・作りたい玩具や学校について教えたい内容を自発的に考えたり準備したりできるように，グループでの話し合い活動を多く取り入れた。
- ・小学生役と来年生役に分かれて案内の練習をし，来年生にわかりやすい遊び方や説明の仕方となるように，互いにアドバイスをし合う活動を行った。



<グループ同士で練習する様子>

2 子どもたちの架け橋 いしいっこまつり

<施設名>

宇都宮市石井保育園

宇都宮市立石井小学校

<成果と今後の課題>

(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や架け橋期のカリキュラムにつながる視点を含めて)

<成果>

- ・ランドセルを背負うなど、教室で過ごす時間を取り入れてもらったことで、小学校を身近に感じる機会になった。また、教科書を見たことや招待状や手紙のやり取りから文字への興味関心がさらに高まった。
- ・保育園で年長として力を発揮しているが、2年生の姿を見て、言葉による伝え合いや協調性、自立心の大切さに気付く姿が見られ、よい刺激となった。
- ・保育士等が2年生の自立心や協調性を実際に目にしたこと、園から小学校に向けて架け橋となるようにそれらの力を育てる環境設定や活動の充実を行っていかうという意識がさらに高まった。

<課題>

- ・小学校の様子を知る機会や小学生と交流をもつことで就学への期待が高まると感じた。今後は小学校の休み時間等を活用させていただき、園児が訪問し交流の回数を増やすことで、年間を通して互いの理解を深めていくことができると考える。

<成果>

- ・児童の思いを大切にしながら進めていくことで、一人一人が自分の成長を実感することができた。また、来年生と関わることで自信につながった。
- ・来年生の姿を教師が実際に目で見るとともに児童の姿を保育園の先生方に見ていただくことで、発達の段階の違いについての理解を深めることができた。また、幼小接続に必要な手立てを考えていく上での一助となった。

<課題>

- ・保育園と小学校の行事との関連や天候、感染症など配慮することが多くあり、日程調整が難しい。
- ・交流会当日だけでなく、交流会前後で交流する場を設けることができるように交流方法やカリキュラムを工夫するとよい。

～事例2の裏側～教職員同士の連携の事例

実施の起点となる、幼児教育施設と小学校の教職員同士の連携の事例を紹介する。

【事例】石井保育園、東石井保育園、石井小学校の取組み

5月頃 場所:石井小学校

▼実施計画の打ち合わせ

→ 担当同士の調整⇒交流実施

1月頃 場所:石井小学校

▼振り返り



小学校



副校長

管理職同士を含む計画打ち合わせ
→組織として事業を実行



担当



担当間で新たな取組
などを相談・実践

実施内容
の送付

担当間で
密に連絡を
取り実施



担当



振り返りと、
各自の行事予定等
をもち寄り、
次年度の日程を調整



次年度につなげる



保育園



保育園

管理職+担当で計画を確認
担当の顔合わせ



各園園長

連携のポイント

- 年度初めに打ち合わせを実施し、管理職(校長・副校長, 園長)同士が計画を推進することで、担当者が動きやすい体制を構築する。
- 担当間の密な連携により、子どもの発案を受けての新たな取り組みなど、実施に向けての調整を行う。

事例3 幼稚園と小学校の双方向による交流

御幸幼稚園 宇都宮市立御幸小学校

本事例のポイント

繰り返し関わることで活動の質を高める

自発性を大切にして活動内容を工夫する

交流活動後の園生活の充実につなげる

具体的な工夫

- ◎幼稚園訪問，小学校訪問と2回の交流を通して，相手への思いやりや感謝の心などを育む。
- ◎小学校案内では，自発的な関わりを促せるようペア活動を計画。
- ◎交流から生まれた園児の「お返ししたい！」という思いを大切に，プレゼント製作活動を実施。

3 幼稚園と小学校の双方向による交流

＜施設名＞	
御幸幼稚園	宇都宮市立御幸小学校
＜園概要＞（R6.12月時点） ・園児数：144人（うち、5歳児49人） ・主な就学先小学校及び人数（予定）： - 御幸小学校 14人 - 今泉小学校 11人 - 豊郷南小学校 11人	＜学校概要＞（R6.12月時点） ・学校児童数：319人（うち、1年生45人：2クラス） ・主な就学前幼児教育施設及び人数： - 御幸幼稚園 6人 - 御幸保育園 5人 - 陽の丘幼稚園 6人
＜実施概要・時期＞	
【12月】1回目交流会「小学1年生による幼稚園訪問」 【2月】2回目交流会「幼稚園児による小学校訪問」	
＜幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に特に繋がる部分＞	
・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現	

3 幼稚園と小学校の双方向による交流

<施設名>

御幸幼稚園

宇都宮市立御幸小学校

<活動のねらい>

《12月》

- ・交流会を通し、様々な活動を共に楽しむ。
- ・遊びを共有する中で、小学生に対し憧れの気持ちを持ちながら触れ合いを楽しむ。

《2月》

- ・交流会を通し、様々な活動に興味や関心をもつとともに、就学に期待することができる。

《12月・2月》

昨年度の園児との交流を振り返り、取り組みたいことを見付けたり、園児のために自分たちにできることを計画したりして、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかるとともに、園児に優しく接したり遊んだりすることができるようにする。

<経験する内容>

《12月》

- ・ルールを理解しながら、小学生のリードのもと手作りのゲームを楽しむ。
- ・小学生と関わる中で、話を聞く姿勢や、積極的に会を展開する姿に刺激をうけながら、見る力、聞く力、考える力を養う。

《2月》

- ・ゲームを通して文字や数字に関心をもつ。
- ・小学校と幼稚園の環境の違いを感じたり、学習や小学校生活に興味や期待をもつ。

- ・自分たちが園児のためにできることがあることに気付く。
- ・園児がどんな気持ちになってほしいかを考え、それを実現させるための活動を選び、工夫して準備する。
- ・取り組んでみたいことについて発言し、これまでの生活科の経験を生かして活動に取り組む。
- ・年長児の立場に立って接する。
- ・直接関わることを通して、交流することのよさや楽しさに気付く。
- ・交流を通して、自分や友達のよさに気付き、これからの自分の成長に願いをもつ。

3 幼稚園と小学校の双方向による交流

<活動の内容>

《12月》

- ・“エビカニクス”を歌いながら一緒に踊る。
- ・じゃんけんあそび“かもつれっしゃ”を行った。
- ・15グループに分かれ、小学生による手作りのすごろくを行った。
- ・会の最後には、小学生からのメッセージ入りの手作りメダルをいただいた。



手作りすごろく楽しいな！



遊んでくれてありがとう！
また会いましょう！

御幸幼稚園

《2月》

- ・15グループに分かれ、小学生は読み手，園児は取り手となり，手作りの学校紹介かるたを行った。
- ・小学生のエスコートで教室に移動し，音読劇を楽しんだ。
- ・園児は実際に椅子に座り，小学生がチョイスした簡単な問題を一緒に解いたり，ぬり絵，線つなぎなどを楽しんだりした。終わりには用意してくれた問題等を手作りのバックに入れてもたせてくれた。
- ・ランドセルを背負わせてくれたり，教室内の掲示板，個々のロッカーや展示作品などを細かく説明したりしてくれた。
- ・体育館に戻り，一緒に“1年生になったら”を歌った。
- ・園児が手作りした，折り紙で折ったトトロの消しゴム入れと消しゴムをプレゼントした。

3 幼稚園と小学校の双方向による交流

<活動の内容>

《12月》「いっしょにあそぼう」の会

- ・エビカニクスと一緒に踊る。
- ・じゃんけん列車で遊ぶ。
- ・手作りすごろく（幼稚園各15グループ、小学校各クラス15グループを作り、合体させたグループで活動）
- ・メダル（メッセージ付き）をプレゼント。
（会の進行は、児童が行った。）



手作りのすごろく。みんなで楽しむようにマスを工夫しました。



「次は学校で会おうね。」メダルをプレゼント。

宇都宮市立御幸小学校

《2月》「いっしょにあそぼう」の会

- ・一緒に遊ぼう（グループ活動）
前回同様15グループに分かれ、児童が手作りした学校紹介かるたで遊ぶ。児童が読み札を読み、園児が絵札を取る。
- ・一緒に勉強しよう（児童と園児のペア活動）
教室に移動し、児童が1人1台端末で作成した自作の迷路や間違い探しなどのプリントを園児に解いてもらったり、ランドセルや学習用具などを紹介したりした。
- ・体育館に戻り、「1年生になったら」を歌い、児童から手紙を渡した。



「学校紹介かるた」の様子



やり方を説明したり、学校ではどんなことをするのか教えたりしました。



3 幼稚園と小学校の双方向による交流

<施設名>

御幸幼稚園

宇都宮市立御幸小学校

<活動でみられた子どもの姿>

《12月》

- ・初めての交流会では、来園してくれるのを何日も前から心待ちにしていた。会が始まると緊張も見られず優しく関わってくれる小学生と意気投合し、楽しく遊びを展開する姿が見られた。
- ・2月にも交流会が行われることを知ると、一層期待も高まり、楽しみにする姿が見られた。

《2月》

- ・小学校に来校した際は、少々緊張していた様子であったが、会が始まると同時に表情も和らぎ、かるた遊びを楽しんでいた。
- ・教室に移動すると、初めての環境に一瞬表情が固まったが、小学生の丁寧な関わり方にすぐに安堵の表情に変わり、小学生気分を味わいながら楽しく活動に参加する様子が見られた。
- ・帰りは、小学校から園まで徒歩で戻ったが、通学路の風景を楽しみながらも、交通ルールを気にしながら歩く姿が見られた。



学校探検！ワクワク♪



これでいいのかなー？

《12月》

- ・昨年度2月に年長児と交流をした経験をもとに、年長児にどんな声掛けをしたらよいのか考えながらルールを説明したり励ましの声を掛けたりする姿が見られた。
- ・2月に入学前の年長児を学校に招待するという、相互交流があることで次回への意欲も高まった。

《2月》

- ・2度目の交流ということで、前回の交流でいっしょに遊んだ園児のことを覚えていて、「〇〇さん」と名前を呼んで楽しく活動する様子が見られた。
- ・教室での活動では、園児と児童の人数がほぼ同数だったため、ペアで活動を行うことができた。一対一に関わることに緊張した様子も見られたが、だんだん打ち解け、2か月後には1年生になる年長児に学校での学習や教室の様子を積極的に伝える姿が見られた。



こんな勉強するよ。



学校で待っているよ。

3 幼稚園と小学校の双方向による交流

<施設名>

御幸幼稚園

宇都宮市立御幸小学校

<環境構成・教材や保育者の援助等>

- ・ 小学校よりいただいた計画書をもとに、交流会の内容などを事前に子どもたちに伝えることができたので、更に期待も膨らみ当日を迎えることができた。
- ・ グループに分かれての活動では、遊びを展開する姿を見回りながら、必要に応じて助言するなどのフォローを行った。また、支援が必要な園児に対しては、トラブルが生じた時など、なるべく子どもたち同士の関わりの中で解決に導けるよう傍らで見守りながら、必要に応じて声をかけるよう配慮した。
- ・ 1回目の交流会の際、小学生から手作りのプレゼントをいただきとても喜んでいました。2回目に来校する際、子どもたちからお返しのプレゼントをしたいとの声があがり、保育活動の中にプレゼント製作を取り入れた。2回の交流会だったが、プレゼントのやりとりを含め、優しく関わってくれた事、戸惑っていた時の細やかな声かけなど、就学への期待とともに感謝の気持ちや友情が深まる様子が見受けられた。



交通ルールを守りましょう！



お兄さん・お姉さんありがとう

- ・ 事前に幼稚園の担当教諭と内容について相談し、一緒に遊べる内容や準備物などについて連携を図ることができた。
- ・ 年長児と積極的に関わるができるように、グループ編成を工夫したり、ペアでの活動を取り入れたりした。
- ・ 児童の「こんなことをしたい」という思いを実現させるために、すごろくやかかるた、自作のプリントを作成する際に、1人1台端末の活用、手書きのイラスト、すごろくのテンプレート、など自分たちで表現方法を自由に選んでできるように準備をした。
- ・ 交流に向けて、児童が自らの考えで年長児に声を掛けたり行動したりできるように、事前に年長児役と児童役に分かれ、リハーサルを行い、どのように関わったり伝えたりするのがよいのか考える時間を設けた。



学校は楽しいよ。入学するのを楽しみにしているよ。



3 幼稚園と小学校の双方向による交流

＜施設名＞	
御幸幼稚園	宇都宮市立御幸小学校
＜成果と今後の課題＞ (幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や架け橋期のカリキュラムにつながる視点を含めて)	
＜成果＞ ・ 小学校への就学を控え、期待と不安を感じる時期であるが、交流会によって、年上の児童との関わり方、幼稚園と小学校との環境の違い、言葉の使い方（名前の呼び方も含む）など、実際に体験したことで、就学へのイメージもより深まったように見受けられた。 ・ 当園で掲げる、卒園までに育ってほしい姿の中で、“自立心” “共同性” “道徳性や規範意識の芽生え” “社会生活との関わり” “思考力の芽生え” “言葉による伝え合い” などが、たくさんの場面から養われた交流会となった。 ＜課題＞ ・ すごろくやかるたあそびでは、文字や数にたくさん触れるので、園でも遊びの中で文字に触れる機会を増やしていきたい。 ・ 異年齢の交流会は、社会性やコミュニケーション能力が育まれ様々な学びや成長の機会でもあるので、今後も子どもたちにとって意義のある活動になるよう小学校との連携を大切にしていきたい。	＜成果＞ ・ 双方向の交流を実現でき、相手意識をしっかりとった質の高い交流となった。 ・ 御幸幼稚園の卒園児も多くいることから、園の先生からの励ましの言葉により、自身の成長を実感したり、自己肯定感が高まったりした。 ＜課題＞ ・ 交流において、事前に配慮が必要な児童や園児についての情報を共有することで、個に応じた支援の在り方や発達の段階に関する理解等を深めていきたい。

事例4 幼小交流会

認定しらゆりこども園 宇都宮市立城山西小学校

本事例のポイント

児童が自分の役割を
もって園児と関わる

園児が小学校への
期待と憧れを持つ

教職員が園児・児童の発達の段階の違い、
つなぎたい資質・能力を共有する

具体的な工夫

- ◎園児と1年生・2年生合同の交流活動を通して、それぞれが自分の役割や在り方や振る舞いを自覚しながら、相手意識をもって行動することの大切さを実感できるようにする。
- ◎交流での楽しい経験と小学生の姿から、園児が「小学校への期待と憧れ」を持てるよう促す。
- ◎教職員が園児・1年生・2年生の発達の段階違いと、どの段階で何を育てるかを再認識する。

4 幼小交流会

＜施設名＞	
認定しらゆりこども園	宇都宮市立城山西小学校
＜園概要＞（R8.1時点） ・園児数：334人（うち、5歳児87人） ・主な就学先小学校及び人数（予定）： - 細谷小学校 20人 - 宝木小学校 14人 - 戸祭小学校 6人 - 上戸祭小学校 6人 他	＜学校概要＞（R8.1時点） ・学校児童数：109人 （うち、1年生18人：1クラス） （うち、2年生21人：1クラス） ・主な就学前幼児教育施設及び人数： - 認定しらゆりこども園 5人 - 大谷保育園 3人 - 能満寺幼稚園 4人 他
＜実施概要・時期＞	
【11月】事前準備～【1月】幼小交流会	
＜幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に特につながる部分＞	
・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現	

＜施設名＞	
認定しらゆりこども園	宇都宮市立城山西小学校
＜活動のねらい＞	
・ 交流活動に参加し、触れ合いを楽しむ中で、就学に向けての期待を高める。 ・ 小学生との交流を通し、思いが通じ合う嬉しさを味わう。 ・ みんなで気持ちよく生活するためのマナーに気付く。	・ 幼小交流活動を通して、お互いを思いやり仲良くする心を育む。 ・ 園児と交流することで、小学生となった自分の成長に気付くとともに、自分と身近な人々や社会との関わりに関心をもち、よりよい生活を送ろうとする心を育む。
＜経験する内容＞	
・ 小学校は具体的に、どんな教室がありどんな学びをするのか等、学習することへの期待と興味をもつ。 ・ １・２年生との関わりを通して小学生の思いや考えを知る。 ・ 自分の思いを話したり、相手の話を聞いたりしながら、コミュニケーションをとる。 ・ 文字や数字に関心をもつ。 ・ 小学生が企画したゲームに参加し、ルールのある遊びをみんなで楽しむ。	・ １・２年生が協力して、遊びを進めたり、活動を楽しんだりする。 ・ 園児の立場に立ってわかりやすく遊びの説明をしようとしたり、学校を案内したりする。 ・ よりよい遊びとなるように工夫したことや、園児に学校案内をしたことで気付いたことや感じたことなどを、自分なりの表現で書いたり発表したりする。

＜活動の内容＞

認定しらゆりこども園

- ・ 小学校の先生や、児童たちと気持ちの良い挨拶を交わした。
- ・ １年生と手をつなぎ、学校探検を行った。理科室、音楽室、図書室などの教室を見てまわり、どんなことをするのか、どんなものがあるのか等、紹介してもらった。
- ・ 英語の先生、１年生と一緒に英語で挨拶を交わしたり、英語の歌を歌ったりした。園で馴染みのある英語曲も一緒に歌った。
- ・ ２年生が企画したゲームにおおよそ７人グループを作り参加した。動くおもちゃ、的当て等、みんなが楽しめるゲームに参加した。
- ・ 小学生が行う、式の始めの挨拶、終わりの挨拶、ルールの説明などをしっかり聞いた。



4 幼小交流会

<活動の内容>

宇都宮市立城山西小学校

- ・ お迎えの式，お別れの式（2年生による挨拶）
- ・ 1年生は園児と一緒に学校の中を歩き，幼稚園との違いをわかりやすく説明しながら案内する。
- ・ 2年生は，自分たちが試行錯誤して作った動く手作り玩具の遊び方や使い方について，園児にわかりやすく伝え，遊びの楽しさを味わってもらう。

【学校案内】

- ・ 理科室，図書室，音楽室，学年教室



お迎えの式の様子



学校案内（図書室）の様子

【AETとの簡単な英会話】

- ・ 本校の特色でもある常駐AETと一緒にEnglish songを歌い，英会話に親しむ。

【身近にある物を利用した手作り玩具】

- ・ 身近にある物…トイレットペーパー芯，空き箱，トレー，段ボール，デザートカップ，乾電池等

射的→



【手作り玩具のお店】

- ・ 射的（的当て，飛距離競い），魚釣り，トコトコ車レース



魚釣り



トコトコ車レース

※AET…小規模特認校英語指導業務会計年度任用職員(Assistant English Teacher)

<施設名>

認定しらゆりこども園

宇都宮市立城山西小学校

<活動でみられた子どもの姿>

- ・最初は緊張する様子もあったが、手をつないで関わっていくうちに、自分から1年生に話しかけてみたり、質問したりする様子が見られるようになった。
- ・2年生が企画したゲームに参加する際には、積極的に関わろうとする様子、小学生が行う様子をまず見て見通しをもってから慎重に取り組む様子など様々であったが、慣れてくると、どの子にも笑顔が見られ楽しんでいた。
- ・学校で一番楽しいことは何？勉強は大変か？など、自ら小学生に質問する様子もあり交流を深めていた。



- ・緊張しながらも相手意識を常にもち、どう伝えたら園児によりよく伝わるか考えて行動する姿が見られた。
- ・園児が喜ぶ姿を見て一緒に喜ぶ小学生の姿が、とても微笑ましかった。
- ・2年生は1年生にやってほしい指示を出し、1年生は2年生や園児の様子を見て手伝うなど、互いに状況判断をして行動することができていた。
- ・1年生は、学校において初めて年下の友達と触れ合ったことにより、進級への意識や、「自分がお兄さんお姉さんになる」という気持ちを改めてもつことができた。



4 幼小交流会

<施設名>

認定しらゆりこども園

宇都宮市立城山西小学校

<環境構成・教材や保育者の援助等>

- ・事前に交流会では何をするのか、小学校はどういうところなのか等の話を聞くとともに、写真や絵本を見てイメージを膨らませ期待がもてるようにした。
- ・緊張や戸惑いから小学生と関わることに距離がある子には、後について見守り、必要に応じて活動を促したり、一緒に行ったりするなどして援助した。
- ・小学生が文字を読みながら説明する姿や、ゲームで工夫を凝らした点などを園児にわかりやすく伝える姿を見て、小学生にさらに憧れをもてるように配慮した。

- ・数種類の玩具を作らせ、遊びを創り出す楽しさが味わえるようにした。
- ・自分が作りたい玩具の改良を重ねることで、素材や長さ、厚み、遊び方の工夫などについて自分なりに考え、試すことを繰り返させ、様々な着眼点に気付けるようにした。
- ・改良作ができたことで、友達と「一緒に遊びたい」「競いたい」という思いをもてるようになり、今度は遊びのルールを進化を考えられるようになった。それを学級の枠を超えて広げたいという思いがもてるような声掛けをした。
- ・交流会では、園児と上手に関われている場面を積極的に称賛し、一人一人が自信をもって取り組めるよう配慮した。



改良のため、まずは1年生にお試し

<施設名>

認定しらゆりこども園

宇都宮市立城山西小学校

<成果と今後の課題>

(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿や架け橋期のカリキュラムにつながる視点を含めて)

<成果>

- ・交流会は小学校へのイメージが具体的に可視化され、より就学に期待がもてる良い機会となった。
- ・文字を書いたり読んだりしながら説明をする小学生の姿や、園児のことを思って行動する小学生の姿等を感じることができ、小学生への憧れを抱くことにつながった。
- ・自分の成長を振り返るきっかけにもなり、さらに自分の言動に自信をもち、意欲的に行動するようになった。

<課題>

- ・事前に手作り玩具やゲーム内容を含めた詳細な打ち合わせを行うと、交流会後の子どもたちの遊びへの継続・発展をさらに助長することができると感じた。

<成果>

- ・児童自身が園児と触れ合えたことで、想定していた通りに行動できたことや想定外のことに協力して対応できたことなど、多くの学びが見られた。また、「今後はこうしていきたい。」という振り返りから、思考力の高まりが感じられた。
- ・園児、小1、小2と一堂にそれぞれの姿を目にすることができ、発達の違いを目の当たりにすることができた。それにより、どの段階で何を育てていけばよいかを再認識することができた。

<課題>

- ・前もって園児の現状を映像などで知っておくと、児童が準備する段階で現状に合った準備をすることができるのではないかと思った。計画の段階で、双方が情報共有をもっと図ってけるとよい。
- ・学校側が園の様子を見に行く機会が圧倒的に少ないので、日常の保育の様子などを参観できる機会があると、相互理解に大きくつながると感じた。

【参考】各事例におけるポイント

自発性を大切にして
活動内容を工夫する

児童の
はりきりを生かす

児童が自分の役割を
もって園児と関わる

継続した交流活動で
学びを深める

繰り返し関わること
で活動の質を高める

交流活動後の
園生活の充実につなげる

園児が小学校を身近に
感じ、安心感を持つ

園児が小学校への
期待と憧れを持つ

教職員が園児・児童の発達の段階の違い、
つなぎたい資質・能力を共有する

など

1人1人のよりよい成長を願う共通の想いを、幼児教育と小学校教育でつないでいくため、上記の各事例におけるポイントを、今後の幼小連携の取組の参考にしていただきたいと思います。

